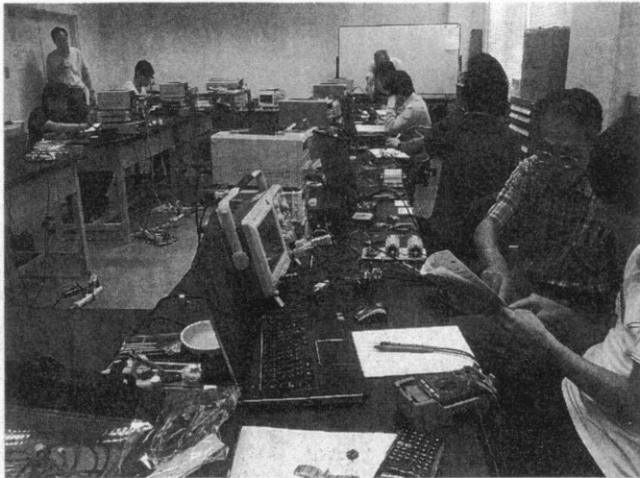


アナログ回路技術者養成講座に熱視線



今年度は昨年を50人近く上回る257人がすでに参加を決めている

群馬大学アナログナレッジ養成拠点

群馬大学アナログナレッジ養成拠点(桐生市天神町、山越芳樹事業実施責任者)が文部科学省の支援を受け、毎年7月から10月に掛け実施しているアナログ回路技術者の養成講座が好評だ。今年で4回目となる試みだが、参加者のアンケート結果を反映させ、毎年カリキュラムを進化させており、今年度は、すでに昨年度の受講者を50人近く上回る22社257人の受講が決まるなど、年々評価を高めている。アナログ回路技術は電機や自動車関連企業が競争力を高めていく上で、欠かせない分野だが、社内にエキスパートを確保することは難しく、OJTだけでは限界があることなどが人気の背景にあるようだ。(塚越吉洋)

企業ニーズ カリキュラム毎年進化 反映させ

OJT補足する役割も

本県は以前から大手電機や自動車関連メーカーの生産拠点が集積しており、アナログ半導体集積回路技術の先進県といわれている。

県でもこうした強みを伸ばしていこうと、10年「アナログナレッジ」を継承する形で、文部科学省の技術戦略推進補助金の採択を受け、09年から5カ年計画で実施している。

「雑音対策」など5分野13講座(座学8・実習5)で構成。講師は同大の教授陣のほか、企業OBらが担当しており、今年度は、高効率や省エネが叫ばれていることを踏まえ、「スイッチング電源の負帰還設計と計測」、「高周波回路の設計・評価」など、これまでになかった6講座を新たに盛り込んだ。

すでに、半分程度の講座を締め切っているが、8月後半から行う「高速・高周波」、「メカロニクスシステム設計」、「雑音対策」などは若干名の余裕があり、詳しい講座内容なども含め同養成拠点ホームページ上で(<http://cs3.ei.gunma-u.ac.jp/AnalogKnow ledge/>)で確認できる。また、こうした定期講座のほか、個別企業のニーズに対応した「アナログ工房講座」やトップ技術者を養成する「アナログエキスパート養成コース」などのオーダーメイド型コースも用意しており、共同研究に結びつく事例なども増やしている。

電気電子工学科・山越芳樹教授の話 デジタル技術が加速する中、礎となるアナログ技術で差別化を図る動きは加速しており、人材育成を強化する企業は増えてきている。今後も企業のニーズを踏まえ、講座を進化させていきたい。